

インド金融政策（2024年10月）

利下げに向けた環境作りが進み、12月に利下げ開始の見方が優勢

2024年10月10日

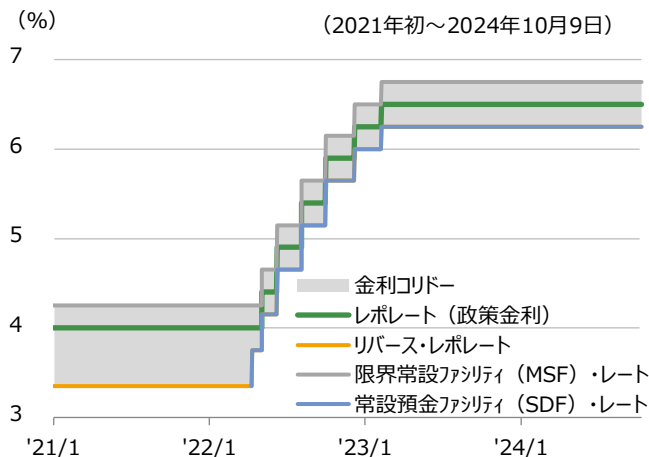
好景気継続への自信もあり、今回中銀は米FRBの利下げに追随せず

インド準備銀行（中央銀行）は10月9日（現地）終了の金融政策決定会合で、政策金利を6.5%に据え置きました【図1】。ただ、声明文では引き締めスタンスを示す「金融緩和の解除に焦点をあてる」との文言は削除され、「政策スタンスを中立へ変更し、経済成長を支援しながら、インフレ率を持続的に目標値4%に近づける」との文言が加わったことで、利下げに向けた環境作りが進みました。今後は米FRBの利下げ継続による後押しもあり、市場参加者の中では12月に利下げ開始との見方が優勢となっています。

消費者物価指数の前年同月比について、中銀は8月の+3%台から9月に顕著に持ち直すと見込みつつも、比較対象の2023年9月の水準が低かったことを原因として挙げています。また、注目点の食品価格については、平年を上回るカリフ（雨季）作物の収穫や、ラビ（乾季）作付けの良好な見通し、潤沢な穀物備蓄などを受け、今後低下傾向を辿るとの見通しを示しました。足元では原油価格の動向に注意する必要がありますが、12月の利下げ開始の障害になる可能性は低く、利下げの環境は整っていると言えます。

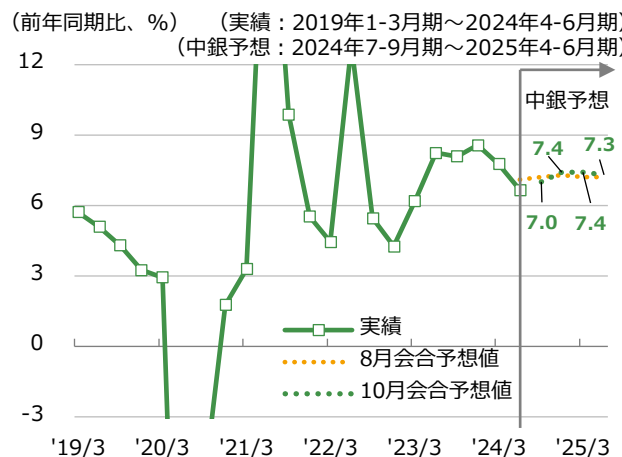
弊社は、利下げの条件が整ったことでインド中銀が早ければ10月に利下げを開始すると見込んでいました。しかし、インド中銀は米FRBの9月の利下げ開始に追随しませんでした。好景気継続への自信が背景にあります。中銀は声明文で、2024年10-12月期以降の実質GDP成長率見通しを小幅ながら上方修正しました【図2】。具体的には、民間の消費と投資の強靭さが今後も続くことや、農業部門の好景気、インフラ投資への政府支出などが高成長を支えるとの見方が示されました。今後は、投資と消費の両輪による高成長が続くことや年内の利下げ開始見通しなどが、引き続き株式市場の好材料であると言えます。

図1 主要政策金利および金利コリドー



※金利コリドーとは、銀行間オーバーナイト金利の誘導目標レンジ。中銀は22年4月8日にコリドーの下限を変更。(出所) ブルームバーグ

図2 実質GDP成長率



(出所) ブルームバーグ、インド準備銀行

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。